

平成29年度第2回「生徒による授業アンケート」の集計結果等について（報告）

本校の教育活動につきましては、日頃ご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、このたび第2回「生徒による授業アンケート」を実施し、貴重なデータを得ることができました。その集計結果を受け、各教科で実践してきた授業改善の成果を分析・検討するとともに、授業改善をさらにいっしょに授業の質を今まで以上に高める取組を進めています。

については、各教科における集計分析結果及び授業改善への取組の概要をご覧いただき、ご質問・ご意見等、お気づきの点がありましたら、ご連絡くださるようお願いいたします。

〔問合せ先 副校長 (046)241-8002〕

1 アンケートの実施日

平成29年12月21日（木）

2 各教科の集計分析・授業改善（概略）

国語	集計分析	おおむね良好な評価を得ており、指導方法において「生徒の発言や反応を大切にしている」という項目で肯定的回答を選んだ生徒が多かった。生徒の反応に丁寧に対応しているといえる。しかし、「興味関心がもてる」や「達成感がある」などの項目では否定的回答が目立った。これは、日々の授業が同じことの繰り返しになりがちなことからの、慣れと緊張感のなさが原因と言える。
	授業改善	授業内で生徒自身に考える機会を増やすことで考えを組み立てる力を養うとともに、書く作業を増やすことで自らの考えを文章で表現する力をつけさせていきたい。また、生徒の予習・復習を促すために、家庭学習の方法を指導したり、家庭学習用の教材を与えることも考えたい。さらに、生徒の達成感を高めるために、問題演習の時間を増やすなど、一回の授業の中で行うことを精査しワンパターンな授業にならない工夫をしたい。
地歴・公民	集計分析	おおむね良好な評価を得ているが、生徒の取り組み状況の「わかる努力をしている」や「予習・復習をしている」で否定的な回答が多くなっている。指導方法では、「話し合いや発表をする機会がある」が否定的回答が多くなっている。基礎的な知識の習得や理解だけでなく、生徒主体の授業づくりをさらに進めていく必要がある。
	授業改善	生徒が主体的に授業に取り組むための工夫として、調べ学習し発表する授業を取り入れていきたい。また、生徒の家庭学習などの予習・復習を促すためにも小テストを行い、生徒の授業以外の学習の時間を確保させたい。さらに、長期休業中の課題を充実させ、家庭での学習習慣をつける手助けをしていきたい。
数学	集計分析	数学、数学Aともに、ほとんどの項目で肯定的回答が60～70%を超えている。「意欲的に取り組んでいる」の評価が高く、数学に興味関心のある生徒が多い。しかし、数学では、「話し合いや発表をする機会がある」で肯定的評価が40%と低かったため、生徒が主体的に学ぶことのできる授業の工夫や、考えさせる時間を多く取り入れるなどの改善が必要である。
	授業改善	意欲的に学ぼうとする生徒は多いが、予習・復習をしている者は少ないようである。そのため、各クラス内での学力差は大きいように感じている。習熟度別に授業を展開しているため、生徒一人ひとりに目を向けやすい状態になっているが、より多くの生徒が主体的に学びながら理解できる授業展開が求められる。必要に応じて、個別に課題を出して学習内容の更なる定着を図り、補習・課題など授業時間外での対応もしていきたい。また、発表、話し合いの機会も増やしていきたい。
理科	集計分析	物理基礎に関しては、「授業マナー」「公平性」等の項目で高い評価を受け、低い評価となったのは「予習・復習」「授業内容の理解」の項目であった。感覚として掴みづらいエネルギー分野の学習だったため、授業中の理解が難しく、家庭での学習もはかどらなかつたと思われる。 生物基礎に関しては、7月のアンケート結果と比べると、全体的に否定的回答が少し増えているが、「予習・復習」に関しては肯定的回答が増加している。家庭学習を習慣化し、複雑な内容にも取り組めるようにしていきたい。
	授業改善	物理基礎に関しては、波分野などの掴みづらい内容も授業中に理解できるよう、目に見える教材を使ったり生徒自身の言葉でわかりやすく発表させたりすることで、家庭での学習も容易になるよう改善していきたい。 生物基礎に関しては、引き続き、基本的知識の定着を促し、生物に対する思考力が高まるような授業展開を工夫していきたい。

平成29年度第2回「生徒による授業アンケート」の集計結果等について（報告）

保健体育	集計分析	<p>体育・専門体育では、多くの項目において肯定的回答が80%以上と生徒の満足度が高い。生徒の能力や課題に応じたわかりやすい説明や、段階的な指導法の工夫によって、多くの生徒が達成感を得ることが出来ている。</p> <p>武道については、基礎基本を大切にされた指導や、礼儀作法の意味などを丁寧に説明しながら授業を行うことで、多くの項目において肯定的回答が80%以上と体育と同等の満足度であった。生徒の習熟度も向上してきたので、生徒が主体的に取り組めるように授業展開を段階的に工夫していく。</p> <p>保健、スポーツ概論の座学でも、実技科目同様に多くの項目において肯定的回答が80%以上と生徒の満足度が高い。今後、肯定的回答がさらに多くなるように、授業内容を精選していく。</p>
	授業改善	<p>種目選択制、男女共習の授業形態が定着した。生徒自身が課題を見つけ、教えあい、学びあいをすることができるように、教員の指導に関して情報共有、および研修をしていく。</p> <p>また、種目選択制になったことに伴い、設定種目や同時展開の場所の工夫などについてさらに検討する。</p>
芸術	集計分析	<p>どの項目においても概ね良好な評価を得ており、70～80%の生徒が授業内容・指導方法ともに肯定的回答であると分析できた。苦手意識の高いとされる単元でも、興味を持って意欲的に取り組んでいる。生徒の実態に応じたわかりやすい授業構成は、理解度と達成感の向上へと繋がっており、多くの生徒から良好な評価が得られた。</p>
	授業改善	<p>生徒の実態に応じた教材の精選と、個々の能力を活かした指導で、生徒の能力がさらに発揮できるようにしていく。クラスによる差はほとんど見られなかったため、今後も継続していく。</p> <p>「話し合いや発表」に関する項目が7月のアンケートより改善された。生徒が主体的に考え、創作したものを自己発信する能力をさらに高めていきたい。授業で学んだ内容を、日常生活をより豊かにする芸術活動へと積極的に繋げるよう、引き続き工夫していきたい。</p>
英語	集計分析	<p>コミュニケーション英語、英語表現の授業内容及び指導方法に関する各項目において、70～80%の生徒から肯定的回答を得ている。生徒自身の取り組みについても多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。習熟度別の授業展開により、理解力や意欲を高めていると考えられる。</p> <p>「わかろうと努力をしている」回答割合に対して、「予習復習をしている」回答割合が低い。予習復習の習慣が定着できる授業改善や工夫を行う必要がある。また、自ら復習に取り組み学習項目の定着が図れるよう、課題作成についても検討をしていく必要がある。</p>
	授業改善	<p>学習した表現や語彙等を定着させるための家庭学習習慣を確立したり、その目標を達成するための言語活動を取り入れた授業展開を検討していく必要がある。英語に関する興味を深め、自ら英語でコミュニケーションを図ったり、英語で自己の考えや主張を表現する意欲を育成できるような授業改善を図りたい。英語で情報収集をし、英語で書かれた文章について、その要点をまとめたりする機会も設けたい。</p>
家庭科	集計分析	<p>授業内容・指導方法ともに約80%の生徒が肯定的回答をしている。被服理論・被服実習の授業では、関心を持ってない、理解しにくいと感じた生徒も見受けられた。興味関心を持てるような教材づくりなどの工夫を、今後も続ける必要がある。</p>
	授業改善	<p>生徒が安全かつ積極的に参加できる授業内容と指導方法の工夫に努めたい。話し合いや発表をする機会を作ることで、他者の意見などからも関心や意欲をもたせられるようにしたい。また、授業の目標を明確にし、達成感が得られるような授業を行っていきたい。</p>
情報	集計分析	<p>「話し合いや発表する機会がある」と「予習・復習をしている」の評価が、他の項目と比べて低くなっている。2学期途中まではテキストに沿った実習中心であったためと考えられる。それ以外の項目はすべて肯定的回答が9割以上であり、「意欲的に取り組んでいる」や「興味関心がもてる」の評価も高く、現在の生活には必要不可欠なものであると感じているようである。</p>
	授業改善	<p>3学期は、個人で調べて発表するという授業形態とする予定であるため、そこで話し合いや発表する機会も改善されると思われる。また、ただパソコンの操作ができるだけでなく、情報社会の中でのモラルや正しい知識を身につけることの大切さに焦点をあてた授業を展開していきたい。</p>